

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3119476号

(U3119476)

(45) 発行日 平成18年3月2日(2006.3.2)

(24) 登録日 平成18年2月8日(2006.2.8)

(51) Int.Cl.

F I

A O 1 G 9/02 (2006.01)

A O 1 G 9/02 6 O 1

A O 1 G 1/00 (2006.01)

A O 1 G 1/00 3 O 3 B

A O 1 G 7/00 (2006.01)

A O 1 G 7/00 6 O 2 D

A O 1 G 1/00 3 O 1 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2005-10436 (U2005-10436)

(22) 出願日 平成17年11月10日(2005.11.10)

(73) 実用新案権者 591055964

株式会社ケイジーエンジニアリング

北海道札幌市東区北20条東15丁目3番
1号

(72) 考案者 後藤 雪夫

北海道札幌市北区太平12条5丁目5番8
号

(72) 考案者 黒田 正子

北海道旭川市緑が丘5条3丁目3-40

(72) 考案者 佐藤 昌志

北海道札幌市清田区平岡10条3丁目1番
18号

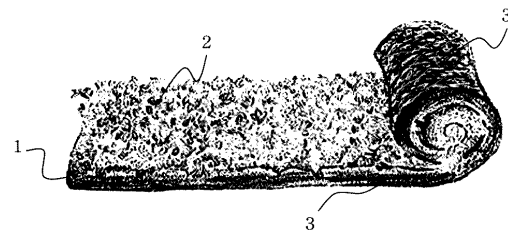
(54) 【考案の名称】 簡易植栽ができるマット状ハーブ苗

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ハーブの植栽にかかる作業時間が短縮でき、なお且つ敷設と同時に効果が波及され、さらにロール状にできることにより、運搬等する際の利便性がある。

【解決手段】育苗床もしくは育苗トレイに防根シートを敷設し、土壌改良剤等を主成分としたマット材上に播種し、生長した根がマット原料成分を網状に覆うことでマット状態を形成する、さらに育苗床もしくは育苗トレイから分離させたときにロール状にできる。

【選択図】図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

育苗床に木枠を設置するかもしくは、育苗トレイを使用して、該木枠もしくは該育苗トレイの底面および壁面に防根シートを敷設し、該防根シート上に土壤改良剤としてピートモス、元肥として炭酸カルシウム、窒素、リン等微量元素を混合したものを含むマット材を載敷し、播種を行う、これにより根が網状に該マット材を覆うように成長し、マット化されロール状態を可能とすることを特徴とするハーブ苗。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のマット材の配合割合は、ピートモスを 100 グラムとし、炭酸カルシウム 8 グラム、熔性りん肥 2 グラム、副産植物質肥料 1 グラム、ほう素有機入り複合肥料 10
10 グラムを基本とするマット材。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、園芸用として庭、公園、畦道等における植栽、また、法面の土留め、緑化に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

近年、街中や公園にハーブを植栽して緑化を図ることによって美観を向上させたり、田畑の畦道に害虫の忌避作用のあるハーブを植栽し農薬の使用を抑制することが促進されている。これらを現状では土壤改良を行ったうえで、播種またはポット苗からの移植によって行われている。 20

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

本考案の課題は、植栽面の土壤改良の手間を省き、播種による場合の不安定な発芽率による密集率の斑、発芽成長までの時間的経過による効果の遅れ。ポット苗の場合の使用量の計算の面倒、移植の手間が掛かるとの課題があった。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

上記課題を解決するための本考案に掛かるマット状ハーブ植栽用苗は、育苗床に木枠を設置するかもしくは育苗トレイを使用し、その底面および壁面に防根シートを敷設し、そのシート上に土壤改良剤および各種肥料を混和させたマット材を載置した状態で播種を行う、これにより根が網状に該原料成分を覆う様に成長し、マット状態を形成するとともにロール状にできることを特徴とする。 30

【0005】

また、マット材は、ピートモスを主成分とし炭酸カルシウム、窒素等微量元素から構成されている、これらは苗および根の成長を促進するためのものであり、これにより根が網状にマット材を覆う、園芸用土では同様の効果が得られていない。

【0006】

さらに、該マット材であるピートモス、炭化カルシウム、窒素等微量元素は、土壤改良剤および肥料であるため、植栽面に対する土壤改良等をほとんど必要としない。 40

【考案の効果】**【0007】**

以上記述したように、本考案によれば、ハーブの植栽にかかる作業期間が短縮でき、なお且つ敷設と同時に効果が波及される、さらにロール状にできることにより運搬等する際の利便性も提供できる。

【考案を実施するための最良の形態】**【0008】**

本考案によるマット状ハーブ植栽用苗の好ましい実施の形態を詳細に説明する。 50

図 1 は本考案の好ましい実施の形態に係る育苗状態の全体図である、図 2 は前期育苗状態を示した図 1 の断面図である、図 3 はマット化され育苗床から分離し、ロール状を示した状態図である。

【 0 0 0 9 】

防根シート 5 は、マット材 1 の底面からマット材 1 の高さを超える状態に敷設する、これにより成長した根が防根シート 5 に達した後に網状に成長しマット材を覆う。

【 0 0 1 0 】

木枠もしくは育苗トレイの壁面 4 の高さは、マット材 1 の高さを超えるが、播種面が日陰になりすぎないように適宜高さをもって構成されている。

【図面の簡単な説明】

10

【 0 0 1 1 】

【図 1】育苗状態の全体図

【図 2】育苗状態の断面図

【図 3】マット化後のロール状態図

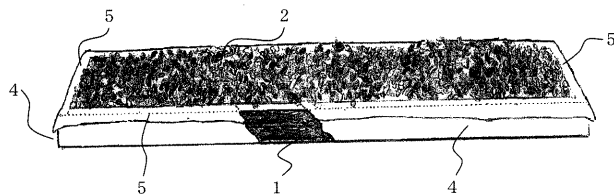
【符号の説明】

【 0 0 1 2 】

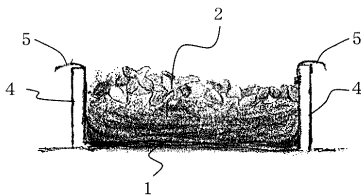
- 1 マット材
- 2 苗
- 3 網状に生育した根
- 4 木枠もしくは育苗トレイ壁面
- 5 防根シート

20

【図 1】



【図 2】



【図 3】

